

デیلیー・ジーザス・ニュース #238

イエスのエルサレムへの最後の旅

イエスは別の徴税人ザアカイを救う

ルカ19.1-10

1 イエスはエリコ (の新しい地区) に入り、そこを通過しておられました。

2 そこに、ザアカイという人がいました。彼は取税人の頭で、お金持ちでした。3 彼はイエスがどんな方であるかを真剣に見ようとしていたが、背が低かったため、群衆のせいで見る事ができなかった。4 それで、彼は先に走って行って、イエスがまさにそこを通ろうとしていたので、イエスを見るためにいちじく桑の木に登った。

5 イエスはその場所に着くと、上を見上げて言われた。 **「ザアカイよ、すぐに降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まらなければならない。」**

6 そこで彼はすぐに飛び降りて、喜んで彼を迎えました。

7 人々は皆これを見て、つぶやき始めた。「彼は罪深い男と交わりを持ったのだ。」

8 しかしザアカイは立ち上がり、主に言った。「主よ、今、私は 私は自分の財産の半分以上を貧しい人々に施し、もし誰かを騙し取ったのであれば、必ずその4倍を返すつもりです。」

9 イエスは彼に言われた。 **「今日、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのです。」**

10 「人の子は、滅びの中にいる命ある者を捜して救うために来たのです。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マルク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	ユダヤのエリコ
タイムライン	3月下旬 (38ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第7段階: ペレアにおけるイエスの宣教
	C. イエスのエルサレムへの最後の旅
タイトル	16. イエスは別の徴税人ザアカイを救う

デイリー・ジーザス・ニュース #238

コメント：

イエスと金持ちの若い役人との以前の出会い (DJN #232) において、主は金持ちが神の国に入ることがいかに難しいかについて語られました (DJN #233)。そして、こう付け加えられました。 **「人には不可能なことで、神には可能です。神には、すべてのことが十分に可能です。」**

ザアカイは、人間には不可能な、金持ちを救うという偉業を神の力によって成し遂げた好例です。ザアカイは多くの財産を持っていたにもかかわらず、「心の貧しい人」でした。彼は富の中に自分のアイデンティティも、自給自足も見出していませんでした。そこが、あの金持ちの若い支配者との決定的な違いでした。

ザアカイの謙遜さに最も大きく寄与したのは、おそらく二つのことだったでしょう。一つ目は、彼の背の低さです。残念ながら、「普通」あるいは背の高い人は、背の低い人を嘲笑しがちです。これは、長期的に見て自尊心を蝕む悪影響を及ぼしかねません。

第二に、ザアカイは、背の低さゆえに失った権力感を晴らすためか、嫌われ者の徴税人という職業を選びました。彼は明らかにその仕事に長けており、昇進して「長」にまで上り詰めていました。しかし、これはユダヤ人の同胞たちからの敵意を募らせる結果にしかありませんでした。ザアカイは、同僚から「見下される」ことに慣れきっていたのです。

この男の注目すべき点は、社会からの拒絶という諸刃の剣を経験したにもかかわらず、徴税活動において公正かつ誠実であり続けたことです。これは、税収管理における不正に対し、自ら400%の罰金を課して弁済することをいとわなかったことに表れています。ザアカイは財産の半分を貧しい人々に施しただけでなく、もし日常的に脱税を繰り返していたなら、これほどの賠償金で彼の富はあっという間に消え去っていたでしょう。彼がこの約束を果たすことができたのは、あらゆる取引において誠実であったからに他なりません。

ザアカイは高潔な人でした。彼は社会から追放され、「正しい」同胞からも疎外されていました。徴税人の長という地位を利用して同胞から報復を受ける絶好の手段を手に入れたにもかかわらず、彼はそれを使わなかったのです。彼は「心の貧しい人」であり、心からイエスを知りたいと願っていたイエスに会うためだけに木に登って謙虚になったのです。

ザアカイはどれほど義になれていたとしても、神の前には自分が罪人であり、救い主を必要としていることを知っていました。彼は **「義に飢え渴いていた」** のです。だからこそ、イエスを信じる覚悟ができていました。イエスなしでは自分は何者でもないと感じていたからです。そして、イエスを知るようになった彼は、イエスに従うために自分の財産を喜んで手放しました。彼は主との個人的な関係の中に宝を見出したのです。

イエスは、ザアカイに対する政治的に正しい見方には全く関心を払いませんでした。マタイ (DJN #059) と同様に、イエスはザアカイを、職業や社会的地位ではなく、神を知りたいという願いによって定義される人物と見ていました。批判が寄せられたにもかかわらず、イエスは公然とザアカイと交わることをためらい

デイリー・ジーザス・ニュース #238

ませんでした。イエスは、この徴税人のような心の貧しい人々に磁石のように引き寄せられました。イエスは、ザアカイの家に来て、永遠に共に暮らす救い主でした。

応用：

あなたは人生や人々が投げかける困難によって「心が貧しくなる」ことを許していませんか？困難はあなたを「義に飢えさせる」ようにしていますか？それとも、神の謙虚な懲らしめに対して、頑固さと傲慢さで応じていますか？

金持ちの若い役人とザアカイは、イエスに対する二つの異なる反応を示しています。あなたはどちらを選びましたか？

徴税人の長の謙遜と心の貧しさの模範に従うために、今日あなたは何をする必要がありますか。